東日本大震災津波伝承館運営協議会の開催結果（概要）

１　開催概要

⑴　**日　時**　　令和３年５月24日（月）　13：30～15：00
⑵　**場　所**　　国営追悼・祈念施設管理棟（道の駅高田松原）セミナールーム
⑶　**出席者**　　委員８名（３名欠席）（別紙のとおり）
⑷　**審議事項**
ア 正副会長の選任について
イ 令和２年度東日本大震災津波伝承館の取組実績について
ウ 令和３年度東日本大震災津波伝承館の事業計画について

２　会長・副会長の選任

⑴ **会長（委員の互選）**　　南　　正昭 委員（岩手大学理工学部教授）
⑵ **副会長（会長の指名）**　　柴山 明寛 委員（東北大学災害科学国際研究所准教授）

３　審議概要

令和２年度の伝承館の取組実績及び令和３年度の事業計画について、次の項目について説明し意見をいただいた。

・　展示事業
・　教育・普及事業
・　広報宣伝事業
・　連携事業

４　協議会での主な発言要旨

各委員の発言要旨は次のとおり。

⑴ **南　正昭会長（岩手大学理工学部教授）**

・　企画展示は力を入れて取り組んでいるが、展示が終わると見る機会がなくなってしまう。これをどう残していくのか検討してほしい。
・　フィールドミュージアム構想というキーワードをつくり、伝承館を核として、周辺の震災遺構を含めて学びの機能を持たせるデザインを描いていってほしい。
・　伝承ロードの取組みは動き出したばかりなので、情報提供等ぜひ連携を図って取り組んでほしい。

⑵ **柴山 明寛委員（東北大学災害科学国際研究所准教授）**

・　今年度から公園の供用が広がり、震災遺構の一般公開が始まる。伝承館はこの施設と繋がっていかなければならない。ぜひ事業計画で国（公園）、陸前高田市と連携することを明記してほしい。

⑶ 菊池　郁聡委員（岩手県教育委員会事務局学校教育室首席指導主事兼産業・復興教育課長）

・　復興教育副読本に伝承館を紹介しており、これを契機に学校からの見学を推進していければいい。

⑷ 越野 修三委員（岩手大学地域防災研究センター客員教授）

・　国内の類似施設では子供たちへの防災教育を積極的に行っている施設があり、国内の類似施設と連携していくことも大事である。
・　これからの伝承を担う高校生を伝承館がバックアップする取組みがあってもいい。

⑸ 五味 壮平委員（岩手大学人文社会科学部教授）

・　企画展示は、常設展示を補う意味で重要な取組みである。また、伝承館だけでは限界があるので共催による企画展示も取組んでいくといい。
・　リピーターを増やすためには、解説員は何を話せるかが大事だ。そのためには国内外の類似施設と相互に学び合う研修に取り組んではどうか。
・　公園全体と伝承館が連携することを意識して取り組んでほしい。

⑹ 高橋 一志委員（公財・さんりく基金三陸ＤＭＯセンター長）

・　沿岸市町村では来館者はどのようなルートで動いているのか関心を持っている。
・　三陸DMOセンターでは県立の高校生が三陸地域に足を運んで伝承館見学や現地体験する「さんりく旅しるべ」という取組みを行っている。

⑺ 千國 亮介委員（岩手県立大学総合政策学部准教授）

・　津波だけでなく、火山や他の災害が学べるプログラムを考えると、より多くの人が来るのではないか。
・　災害への関心がない人でも伝承館に足を運んでもらえるように、観光と結び付けるとか、追悼施設に合った音楽会を開くといった取組みをしてもいいと思う。

⑻ 松村 敦子委員（元 赤崎中学校校長）

・　教員初任研修などで岩手の教員が伝承館で学ぶ機会があればいい。
・　震災から10年を経過して、小・中・高の児童生徒が今どんな思いをしているか、どんなことを伝えたいのか、ということを詩にして、それに曲をつけて発信するといいのではないか。